



第2580地区 東京豊島東ロータリークラブ

# WEEKLY REPORT

創立/1986年2月19日 (会長)稲川 一 (幹事)月井 雅夫  
 例会場/〒171-8505 東京都豊島区西池袋1-6-1 ホテルメトロポリタン TEL 03-3980-1111  
 事務所/〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-29-14-101 TEL 03-3985-7577 FAX 03-3590-6644  
 HP <http://www.toshimah-rc.jp> E-mail [info@toshimah-rc.jp](mailto:info@toshimah-rc.jp)

## 第1264回例会 2012年11月7日

### 本日のプログラム

例会 12:30 ~ 13:30  
 卓話 ロータリー財団の活動について  
 地区ロータリー財団委員会  
 資金推進委員会委員長 山口恭弘氏  
 紹介者 新倉康栄会員

### 次回のプログラム

国際ロータリー第2580地区  
 北分区合同例会・IM 於:上野精養軒  
 登録開始 14:30  
 北分区合同例会 15:00~15:25  
 インターシティミーティング 15:30~17:30  
 懇親会 18:00~19:30

♪本日のソングリーダー— 佐野 明三郎会員 —

### 会長報告

①石川ガバナーから2020東京オリンピック・パラリンピック招致への協力についてお知らせがきております。ご紹介します。

当地区の水野直前ガバナーが東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会副理事長・専務理事として招致活動をされておられ、また、ロータリーを代表して、松宮剛RI理事も招致評議委員に就任されました。ロータリーは日本全体でオリンピック招致を応援しています。

2013年になるとIOCによる支持率調査が行われるそうです。

調査対象に選ばれた際は、ロータリアンはもとより周りの方々にも「大いに賛成」と答えて頂き応援・支持をお願いしたいとの事で、招致委員会からリーフレットとピンバッジが届いておりますのでメールBOXにお配りさせて頂きました。

支持率向上のため、ご協力をお願い申し上げます。

②前川会員を通じて、台北南山ロータリークラブのバナーをいただきました



### ■ゲスト

明治神宮至誠館 館長 荒谷 卓様  
 ご紹介者 花岡 伸明様

### ■出席報告

会員	出席 参加 会員数	出席数	欠席数	出席率	10月17日分 修正出席率
34名	31名	28名	3名	82.35%	81.25%

### ニコニコBOX

櫛田会員/いよいよ64才間近! 人生ますます楽しくなりそうで……ワクワクです。

稲川会員/結婚記念日のお祝いを、ありがとうございました。よく考えたら30年目でした。

### 11月のお祝い

#### 【会員の誕生日】

新倉康栄会員 9日  
 櫛田隆治会員 12日  
 時友雅行会員 20日  
 高崎快彦会員 22日

#### 【夫人の誕生日】

竹内泰子夫人 30日

#### 【結婚記念日】

吉田武輝・恵子ご夫妻 1日  
 村上芳明・靖子ご夫妻 2日  
 今田拓男・早苗ご夫妻 3日

年間100%出席表彰  
 21年間皆出席  
 新倉康栄会員

## 武道の視点から領土問題を考える

明治神宮 至誠館 館長 荒谷 卓氏



### 神話に見られる日本の武の原点

武道には「位」の勝負という考えがある。これは小さな視点で攻めてくる相手に対して、大義を含めてより大きな視点から対峙するという考え方である。

個人の武道で言えば、高位高所から考え行動する者ほど「格が高い」存在になる。勝海舟が彼を殺しに来た坂本竜馬に対したように、「格の違い」を示せるくらい実力があれば、刀を使わなくとも相手が敵対心を失ってしまう。

「格の違い」により、敵国民をも含めた民心を掌握し、敵対者にたいする包容同化力で戦いを制する。これは、戦いというものを、平時～戦時～平時の領域でとらえる我が国の『武』の概念の特徴である。

では、どこからこのような武の概念が生まれたのだろうか。

日本の武道場には神棚がある。一般的には、鹿島・香取の武神を祭って、神の御前で心身を鍛錬する。その理由は、神話の中で鹿島・香取の神が日本の武のあるべき姿を示しているからである。

鹿島の神「タケミカツチノカミ」の「国譲り」の話のみてみよう。まさに国と国の統治についての交渉が展開される物語だ。

高天原の命を受け「オオクニヌシノカミ」は葦原中國の国造りを進めていた。しかし、ひどく騒がしく乱れている様子。「アマテラスオオミカミ」は自らの子孫にこの国を統治させることとし、荒れずさぶ神々を和らげて帰順させようと交渉を重ねる。

交渉は度々失敗する。理由は、使者が交渉相手にへつらったり、自己利益に走ったりしたことによる。まさに、日本の現状への戒めとなる話である。

そこでついに、剣（武）の神「タケミカツチノカミ」が使者として遣わされ、「オオクニヌシノカミ」との交渉が始まる。ここでは交渉のことを「ことむ

けやわす」と表現している。これは「言葉」を向けて「和す（やわす）」という意味である。

ここには、日本人にとっての「平和」の概念が示されている。欧米の『平和』の概念『どちらか一方の思想や価値観で他方を制圧・支配する』のではなく、相互の考えを尊重し「たいらけくわす」、お互いが自律して共存共栄し合える状態を「平和」と呼んだのである。

ではその「ことむけ」の内容はどうだったかと言うと、その基本は「いかに相手の尊厳を守りながら納得させるか」という点にある。

神話の中では、「タケミカツチノカミ」は、「オオクニヌシノカミ」の尊厳を子子孫孫まで守り通すことを約束し、「まつり」という形を通じてその精神を永遠に敬うことを誓う。そのために出雲大社という日本一のお社を建てる。（その約束は現在まで守られている）

また同時に、「位の違い」も示す。それは統治の概念の違いを通じて明らかにしている。「オオクニヌシノカミ」の統治の仕方は「うしはける」と言って、これは「私」の管理下に置くという意味である。つまり「私のものとして領民、領域を支配する」という統治の仕方だ。

一方、これに対して「アマテラスオオミカミ」のそれは、「しろしめす」統治だ。「しろしめす」とは「知る」の尊敬語で、「統治とは領民の心や状況を知ること」という意味である。

同じような言葉で「きこしめす」（人の意見、声を聞く）、「みそなわす」、（人の様子や行いを見る）等もあるが、要するに、上に立つものは、見たり聞いたりを通じて、人々の生活や考えを知ることによって民意をさべつなく受け入れ、すべての人々が幸福になるような政（まつり）を施すという意味だ。

当然、国民の立場からすれば、「しろしめす」統治は、領地領民を私有物として支配する統治に比べて、よほどありがたい民主的な統治と言える。国民にとってどちらがいいのか、という「統治の格比べ」の勝負になるわけだ。

そこで「オオクニヌシノカミ」は納得をして国を譲ることになる。

このように平和交渉、戦争、戦後処理のいずれも、神話の中では『他者を敬う』という確固たる思想で貫かれている。現代においても武道が礼を重んずるのは、神武の精神の継承である。